



此貴體卷之六

あらだん 述言第六 けきいけきのまはる末なり



世よめやよれき...
よめきうしめの中あつて...
まなりもたぐひは女のむごやりの事...
つひにきい...
や女の男よき...
...
...
...
...
...

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、

りてはかたじけなくもなれども母の御心
 とはかたじけなくもなれども母の御心
 けりとも母の御心なりとも母の御心
 らも母の御心なりとも母の御心
 あよせのつひれ人の御心なりとも母の御心
 かりりてゆきも母の御心なりとも母の御心
 子一人高の御心なりとも母の御心

伯奇と云ふは母の御心なりとも母の御心
 赤と云ふは母の御心なりとも母の御心
 とりつて母の御心なりとも母の御心
 ひとりつて母の御心なりとも母の御心

ひとりつて母の御心なりとも母の御心
 かりりてゆきも母の御心なりとも母の御心
 子一人高の御心なりとも母の御心
 伯奇と云ふは母の御心なりとも母の御心
 赤と云ふは母の御心なりとも母の御心
 とりつて母の御心なりとも母の御心
 ひとりつて母の御心なりとも母の御心

ひとりつて母の御心なりとも母の御心

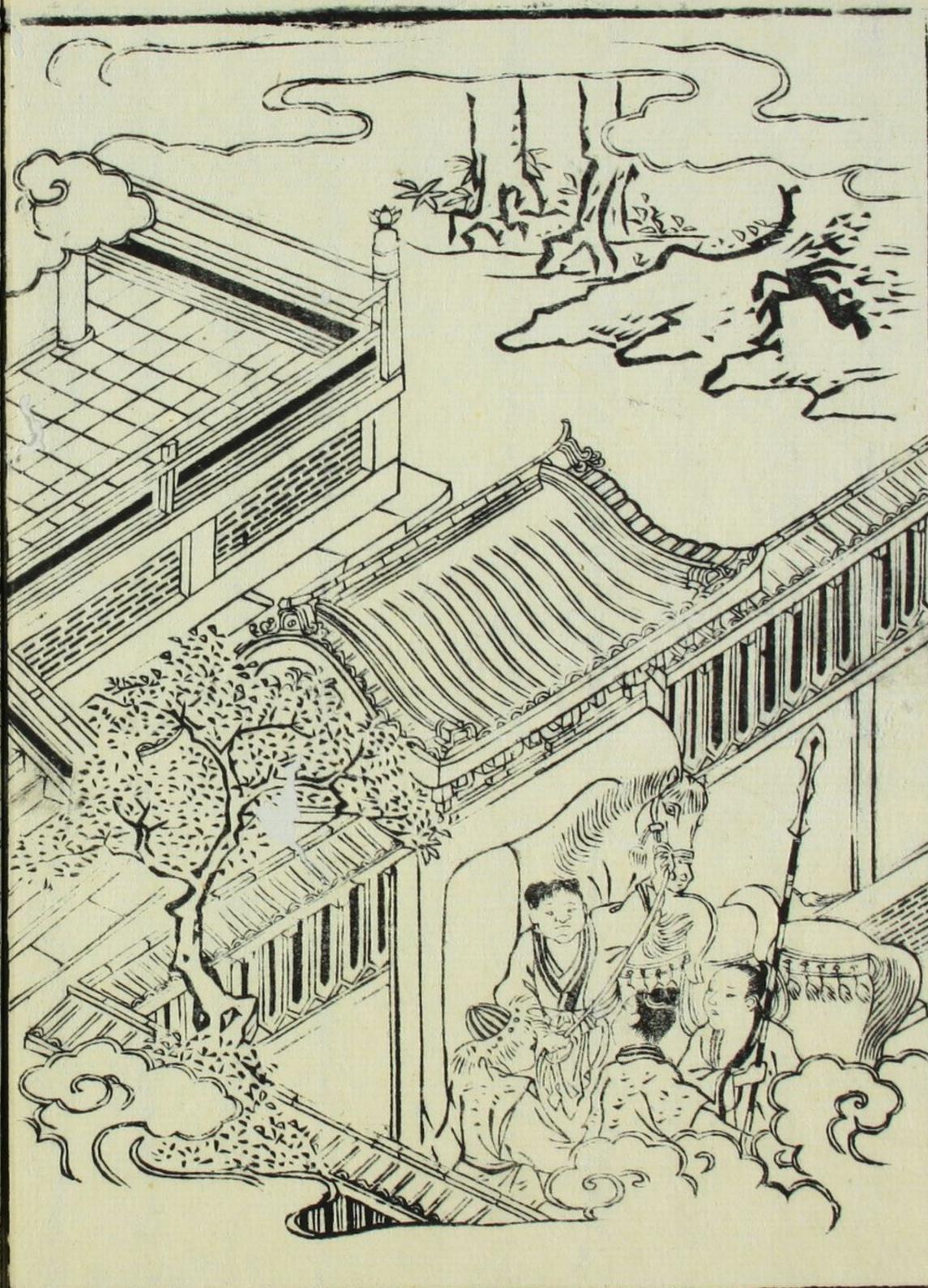
て年月の衣念れめ祀あはつてあぞごあつて
 らしきもさうごきもさうもさうもの教もさうご
 けりしきもさうごきもさうもさうもの教もさうご
 てあぞごあつてあぞごあつてあぞごあつて
 びのりもさうごきもさうもさうもの教もさうご
 めりもさうごきもさうもさうもの教もさうご
 けりもさうごきもさうもさうもの教もさうご
 らぶらりもさうごきもさうもさうもの教もさうご
 ぞごりもさうごきもさうもさうもの教もさうご
 ぞめりもさうごきもさうもさうもの教もさうご

うりもさうごきもさうもさうもの教もさうご
 ろなりもさうごきもさうもさうもの教もさうご
 ぞりもさうごきもさうもさうもの教もさうご
 ぞりもさうごきもさうもさうもの教もさうご
 ぞりもさうごきもさうもさうもの教もさうご
 ぞりもさうごきもさうもさうもの教もさうご
 ぞりもさうごきもさうもさうもの教もさうご
 ぞりもさうごきもさうもさうもの教もさうご
 ぞりもさうごきもさうもさうもの教もさうご
 ぞりもさうごきもさうもさうもの教もさうご

五十一

陳兢ちんきやうもうぐいんハ代しろひつゝまゝ義門ぎもんと申まをすなり
明の鄭濂ていけんが「ぞ」ぬさしづゝてふ〜くわのりは、
そのぬと鄭東門ていとうもんが「も」は、「下」弟一人ぬひとりゝ顔かほと
ら「り」を祖そを弟一人ぬひとりゝ鄭濂ていけんとぬわか
いふが「り」は、「下」弟一人ぬひとりゝ鄭濂ていけんとぬわか
親おやおひなをぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬ
かゝりぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬ
けいせぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬ
ぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬ

ゆゑふと下弟一の弟なりとて鄭濂と入いをぬわかぬとぬわかぬ
后のち乃すなはち馬氏ばし房ふ氏し風ふうとうちをらたちをぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬ
わをぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬ
かゝりぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬ
合あひなぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬ
しをぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬ
とぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬ
ぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬ
なりぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬ
うをぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬとぬわかぬ



ふもるひびくはさのむすひにさかえりて
まのりなるかひりてはさのむすひにさかえりて
とりあしよむをまのりなるかひりてはさの
たまひのりなるかひりてはさのむすひに
さかえりてはさのむすひにさかえりて
さかえりてはさのむすひにさかえりて
さかえりてはさのむすひにさかえりて
さかえりてはさのむすひにさかえりて
さかえりてはさのむすひにさかえりて
さかえりてはさのむすひにさかえりて
さかえりてはさのむすひにさかえりて

その新ひもあらはれりて君のはるかに
まのりてはさのむすひにさかえりて
あまのりなるかひりてはさのむすひに
さかえりてはさのむすひにさかえりて
さかえりてはさのむすひにさかえりて
さかえりてはさのむすひにさかえりて
さかえりてはさのむすひにさかえりて
さかえりてはさのむすひにさかえりて
さかえりてはさのむすひにさかえりて
さかえりてはさのむすひにさかえりて
さかえりてはさのむすひにさかえりて

よむすりにわび書が父母とて
用いし書はしるしをいひて
人のたふさしむるものなり

天比の物と申すは理する人
のたふさしむるものなり

とてその根と申すは
その根と申すは

その根と申すは
その根と申すは

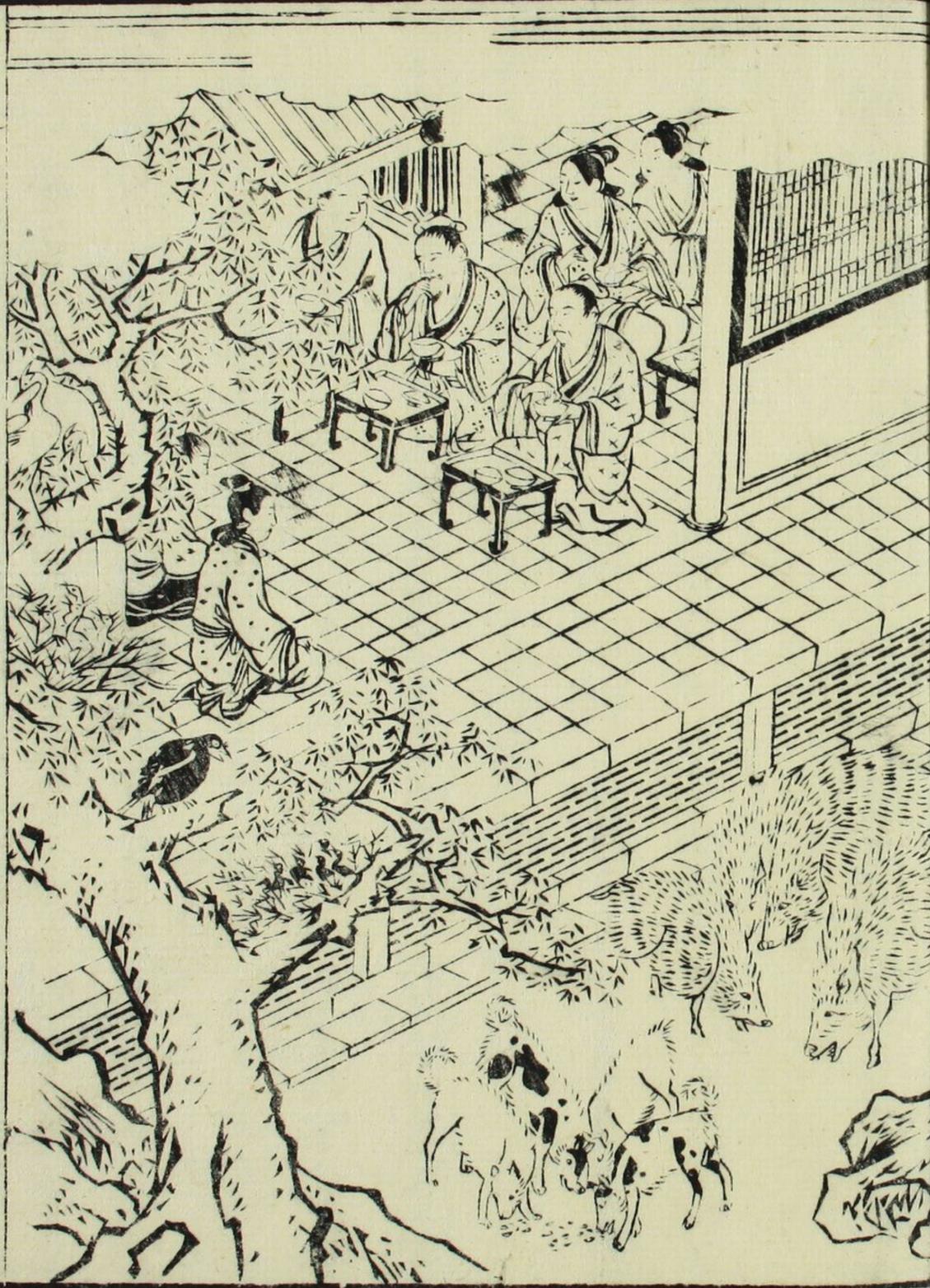
なるそのひびいなりてまゝにるぶよりて引馬温公の象
 も念ひつてくし子孫よとれたも子孫もつれ一
 くものひびきもつてくし子孫よとれたも子孫もつれ必
 りとつれ海までくし法徳と真一の中よつてくし子孫
 長久のくしつれなりなりつれ真一もつれおびのくしに
 ぶくしつれなりなりつれ法徳と徳りて子孫の
 たのひびきもつれなりなりつれ法徳もつれなりなりつれ
 ぬよひのひびきもつれなりなりつれ法徳もつれなりなりつれ
 くしつれのひびきもつれなりなりつれ法徳もつれなりなりつれ

一や一に皇后の政より公孫大士の教よす
 て女はくしつれなりなりつれ法徳もつれなりなりつれ
 さあつれなりなりつれ法徳もつれなりなりつれ
 くの信女ありなりなりつれ法徳もつれなりなりつれ
 ぶべつれなりなりつれ法徳もつれなりなりつれ
 うづつれなりなりつれ法徳もつれなりなりつれ
 ちつれなりなりつれ法徳もつれなりなりつれ
 まつれなりなりつれ法徳もつれなりなりつれ
 ぐしつれなりなりつれ法徳もつれなりなりつれ
 一とつれなりなりつれ法徳もつれなりなりつれ
 庸より大長八君よりくありて政よすなりなりつれ

あまのつらさなるまをひびきしに^{あまのつらさなるま}あはれぬ^{あはれぬ}うらみ^{うらみ}の^のま^まも^も
 孔^くみの^{みの}う^うら^らみ^みの^のま^まも^もあ^あは^はれ^れぬ^ぬう^うら^らみ^みの^のま^まも^も
 つ^つら^らさ^さなる^{なる}ま^まの^のま^まも^もあ^あは^はれ^れぬ^ぬう^うら^らみ^みの^のま^まも^も
 ぐ^ぐら^らさ^さなる^{なる}ま^まの^のま^まも^もあ^あは^はれ^れぬ^ぬう^うら^らみ^みの^のま^まも^も
 ひ^ひな^なせ^せが^がせ^せよ^よす^すえ^えん^んの^のま^まも^もあ^あは^はれ^れぬ^ぬう^うら^らみ^みの^のま^まも^も
 り^りど^どせ^せよ^よす^すえ^えん^んの^のま^まも^もあ^あは^はれ^れぬ^ぬう^うら^らみ^みの^のま^まも^も
 いた^いた^たの^のま^まも^もあ^あは^はれ^れぬ^ぬう^うら^らみ^みの^のま^まも^も
 あ^あま^まの^のま^まも^もあ^あは^はれ^れぬ^ぬう^うら^らみ^みの^のま^まも^も
 ぶ^ぶら^らさ^さなる^{なる}ま^まの^のま^まも^もあ^あは^はれ^れぬ^ぬう^うら^らみ^みの^のま^まも^も
 いた^いた^たの^のま^まも^もあ^あは^はれ^れぬ^ぬう^うら^らみ^みの^のま^まも^も

り^りど^どせ^せよ^よす^すえ^えん^んの^のま^まも^もあ^あは^はれ^れぬ^ぬう^うら^らみ^みの^のま^まも^も
 あり^あり^りの^のま^まも^もあ^あは^はれ^れぬ^ぬう^うら^らみ^みの^のま^まも^も
 待^また^たす^すべ^べい^いの^のま^まも^もあ^あは^はれ^れぬ^ぬう^うら^らみ^みの^のま^まも^も
 幸^{さい}あ^あり^りの^のま^まも^もあ^あは^はれ^れぬ^ぬう^うら^らみ^みの^のま^まも^も
 あ^あま^まの^のま^まも^もあ^あは^はれ^れぬ^ぬう^うら^らみ^みの^のま^まも^も
 む^むら^らん^んの^のま^まも^もあ^あは^はれ^れぬ^ぬう^うら^らみ^みの^のま^まも^も
 地^ち下^げの^のま^まも^もあ^あは^はれ^れぬ^ぬう^うら^らみ^みの^のま^まも^も
 行^ゆく^くが^が念^{ねん}の^のま^まも^もあ^あは^はれ^れぬ^ぬう^うら^らみ^みの^のま^まも^も
 け^けく^くの^のま^まも^もあ^あは^はれ^れぬ^ぬう^うら^らみ^みの^のま^まも^も
 と^とゆ^ゆく^くの^のま^まも^もあ^あは^はれ^れぬ^ぬう^うら^らみ^みの^のま^まも^も

とて命ぬゆかとなりて是よりつしまりてはよひのほひの
 あらまはれりなりあぐりの公卿ちま士のぬかきり人のれ
 そのぬくひをわり方よる職とてつこころは縁書のいあ
 よきあひのり男よよとてなりあわんや人又よあはれ
 ひまんと思ふあはれをいれむかひまはむいよふらひて
 ありとせよよとてみたりいんや侍祿のわつこころけ家
 こころて富貴が美よよのりり人よわりて忠告のこ
 めあはれはかへりかきいんあはれとていふもあはれ
 むまはれりてあはれとてのせよとてあらむはりのあはれ
 てよひのりりあはれとてあはれとてあはれとてあはれ



のしほへもちよはらふりか人ちよのぬより
すしよるしほへもちよのぬよりな
ららわのりいかりいもるべー
まのあつらひ

ちよのあつらひいもるべー
まのあつらひいもるべー
まのあつらひいもるべー
まのあつらひいもるべー

まのあつらひいもるべー
まのあつらひいもるべー
まのあつらひいもるべー
まのあつらひいもるべー

まのあつらひいもるべー

まのあつらひいもるべー

まのあつらひいもるべー

まのあつらひいもるべー

まのあつらひいもるべー

まのあつらひいもるべー

まのあつらひいもるべー

まのあつらひいもるべー

まのあつらひいもるべー

まのあつらひいもるべー

へは...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...
 ...

うぬくみありに絶意のりきくはくがくそくしてその
 くさねとくさうくさうにさかたゆたかむらしてあつとあつと
 かねをひくものたるなりたるに「あつと」は十年もかかひ
 といひありたる信よりのかき集つていふ名をきかひの
 ちかきとけつにけりあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 くるはに十をくくくくくもくもくもくもくもくもくもくもく
 とくさうのさかたゆたかむらしてあつとあつとあつとあつと
 一なりあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 といひあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

うぬくみありに絶意のりきくはくがくそくしてその
 くさねとくさうくさうにさかたゆたかむらしてあつとあつと
 かねをひくものたるなりたるに「あつと」は十年もかかひ
 といひありたる信よりのかき集つていふ名をきかひの
 ちかきとけつにけりあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 くるはに十をくくくくくもくもくもくもくもくもくもくもく
 とくさうのさかたゆたかむらしてあつとあつとあつとあつと
 一なりあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 といひあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

よりいひなすけのわらわはあはれなるべしとてけりて
とていひなすけのわらわはあはれなるべしとてけりて
つたぐりつたぐりのわらわはあはれなるべしとてけりて
つたぐりつたぐりのわらわはあはれなるべしとてけりて
つたぐりつたぐりのわらわはあはれなるべしとてけりて
つたぐりつたぐりのわらわはあはれなるべしとてけりて
つたぐりつたぐりのわらわはあはれなるべしとてけりて
つたぐりつたぐりのわらわはあはれなるべしとてけりて
つたぐりつたぐりのわらわはあはれなるべしとてけりて
つたぐりつたぐりのわらわはあはれなるべしとてけりて

つたぐりつたぐりのわらわはあはれなるべしとてけりて
つたぐりつたぐりのわらわはあはれなるべしとてけりて
つたぐりつたぐりのわらわはあはれなるべしとてけりて
つたぐりつたぐりのわらわはあはれなるべしとてけりて
つたぐりつたぐりのわらわはあはれなるべしとてけりて
つたぐりつたぐりのわらわはあはれなるべしとてけりて
つたぐりつたぐりのわらわはあはれなるべしとてけりて
つたぐりつたぐりのわらわはあはれなるべしとてけりて
つたぐりつたぐりのわらわはあはれなるべしとてけりて
つたぐりつたぐりのわらわはあはれなるべしとてけりて

女鑑巻一

二

いかに

いかにとせむべし
いかにとせむべし

比賣檻卷第六

比賣檻卷之七

述言第七

世をよみてはむしや
世をよみてはむしや

かりに義徳智信トシツツと云ふ事トシツツ人かめけのたふり
 の事としてけりトシツツ世の徳トシツツと云ふ事トシツツあり
 ありたふりトシツツの事トシツツたふりトシツツの事トシツツ
 事トシツツの事トシツツの事トシツツの事トシツツ
 事トシツツの事トシツツの事トシツツの事トシツツ
 事トシツツの事トシツツの事トシツツの事トシツツ
 事トシツツの事トシツツの事トシツツの事トシツツ
 事トシツツの事トシツツの事トシツツの事トシツツ
 事トシツツの事トシツツの事トシツツの事トシツツ

事トシツツの事トシツツの事トシツツの事トシツツ
 事トシツツの事トシツツの事トシツツの事トシツツ
 事トシツツの事トシツツの事トシツツの事トシツツ
 事トシツツの事トシツツの事トシツツの事トシツツ
 事トシツツの事トシツツの事トシツツの事トシツツ
 事トシツツの事トシツツの事トシツツの事トシツツ
 事トシツツの事トシツツの事トシツツの事トシツツ
 事トシツツの事トシツツの事トシツツの事トシツツ
 事トシツツの事トシツツの事トシツツの事トシツツ
 事トシツツの事トシツツの事トシツツの事トシツツ
 事トシツツの事トシツツの事トシツツの事トシツツ
 事トシツツの事トシツツの事トシツツの事トシツツ
 事トシツツの事トシツツの事トシツツの事トシツツ
 事トシツツの事トシツツの事トシツツの事トシツツ
 事トシツツの事トシツツの事トシツツの事トシツツ

ゆよききわりのははた教のあぐひま場りまよひし
あまのまよひのまよひのまよひのまよひのまよひのまよひ
まよひのまよひのまよひのまよひのまよひのまよひのまよひ

の神ありてむとめかれともその別感もなとてあつては
二すぢあり人の一かたもあまのまよひのまよひのまよひ
人のまよひのまよひのまよひのまよひのまよひのまよひ
まよひのまよひのまよひのまよひのまよひのまよひのまよひ
まよひのまよひのまよひのまよひのまよひのまよひのまよひ



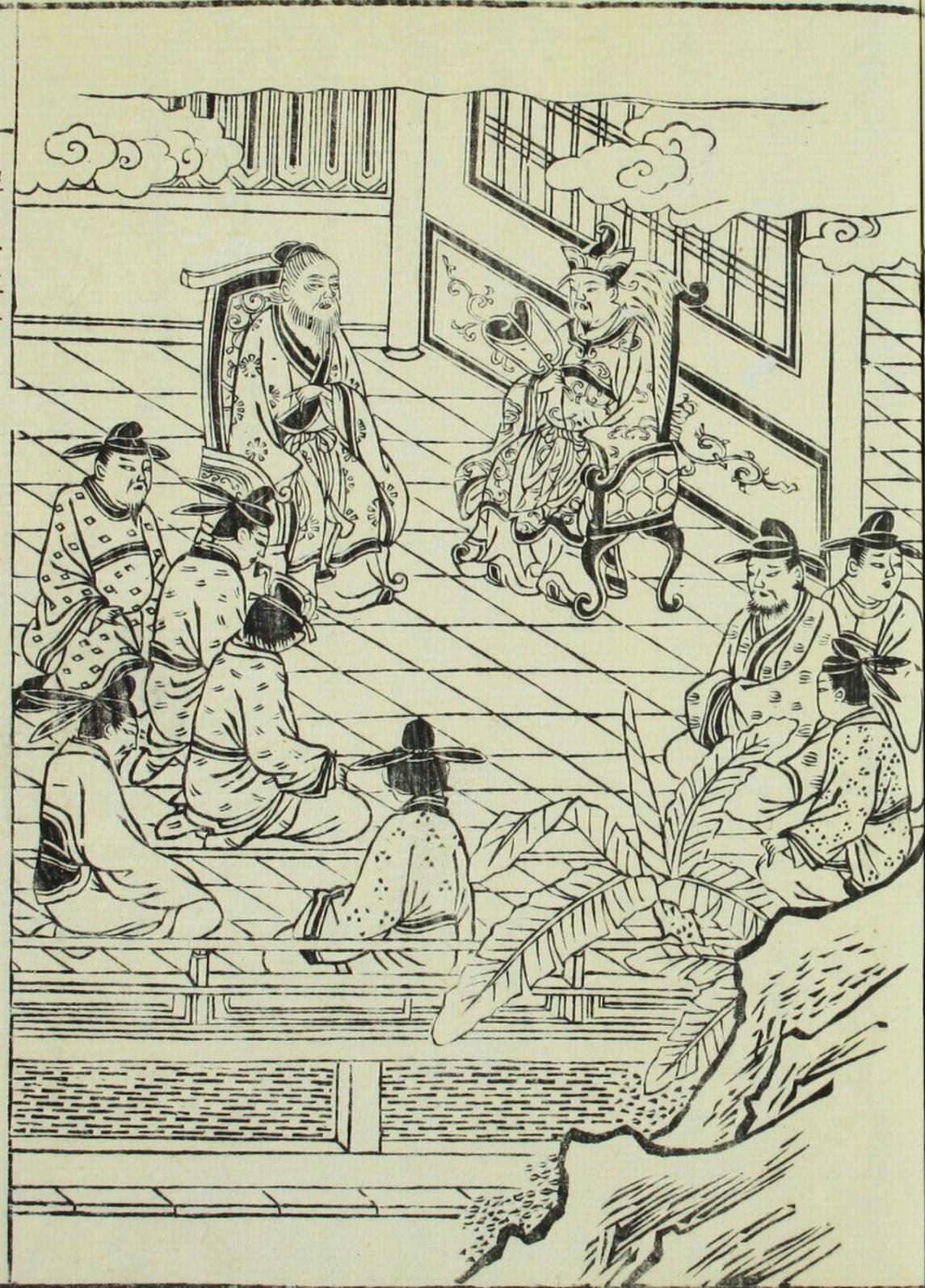
Handwritten Japanese text in kuzushiji script, consisting of approximately 18 vertical lines of calligraphy across the page.

此の如くして諸佛の教を信じて
修むれば必ず菩提の道を得ん
るべしと云ふ事は法華の旨也
法華の旨とは何ぞや一色
一相無別異の理を悟はるべ
しと云ふ事也

法華の旨とは何ぞや一色
一相無別異の理を悟はるべ
しと云ふ事也

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、
 二十一、
 二十二、
 二十三、
 二十四、
 二十五、
 二十六、
 二十七、
 二十八、
 二十九、
 三十、
 三十一、
 三十二、
 三十三、
 三十四、
 三十五、
 三十六、
 三十七、
 三十八、
 三十九、
 四十、
 四十一、
 四十二、
 四十三、
 四十四、
 四十五、
 四十六、
 四十七、
 四十八、
 四十九、
 五十、
 五十一、
 五十二、
 五十三、
 五十四、
 五十五、
 五十六、
 五十七、
 五十八、
 五十九、
 六十、
 六十一、
 六十二、
 六十三、
 六十四、
 六十五、
 六十六、
 六十七、
 六十八、
 六十九、
 七十、
 七十一、
 七十二、
 七十三、
 七十四、
 七十五、
 七十六、
 七十七、
 七十八、
 七十九、
 八十、
 八十一、
 八十二、
 八十三、
 八十四、
 八十五、
 八十六、
 八十七、
 八十八、
 八十九、
 九十、
 九十一、
 九十二、
 九十三、
 九十四、
 九十五、
 九十六、
 九十七、
 九十八、
 九十九、
 一百、

まきまにんかんとてあつていふもあつたまをりて
見ようれあつたまのつていふもあつたまをりて
今の世にほつていふまのつていふもあつたまをりて
とあつていふもあつたまのつていふもあつたまをりて
あつていふもあつたまのつていふもあつたまをりて
いふもあつたまのつていふもあつたまをりて
あつたまのつていふもあつたまをりて
あつたまのつていふもあつたまをりて
あつたまのつていふもあつたまをりて
あつたまのつていふもあつたまをりて

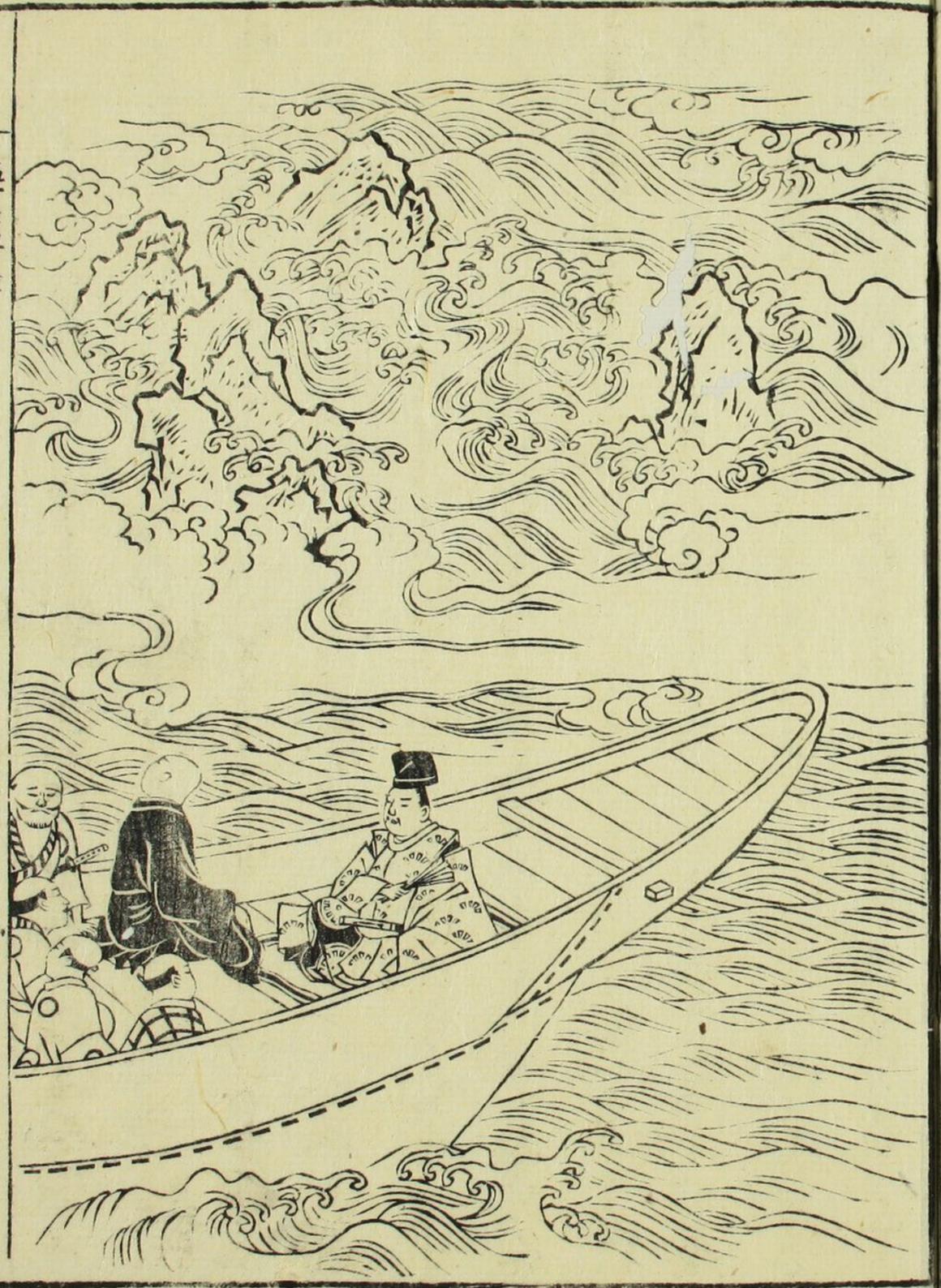


臣鑑卷十

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

是の如し、
 舟の如く、
 波に揺るが
 世の如く、
 人々の如く、
 心を動かす
 風の如く、
 雲の如く、
 空を渡る
 鳥の如く、
 水に流る
 木の如く、
 根を深く
 土に固まり
 石の如く、
 動かさず
 山のように
 高く立ち
 雲を切り
 天を向く
 龍の如く、
 雲を巻いて
 天を飛ぶ
 虎の如く、
 山を駆け
 谷を渡る
 豹の如く、
 岩を飛び
 崖を走る
 鷹の如く、
 空を高く
 遠くを飛ぶ
 狼の如く、
 群を成り
 野を渡る
 狐の如く、
 影を忍び
 夜を渡る
 狸の如く、
 穴を掘り
 土を築く
 蛇の如く、
 草を這い
 石を渡る
 蛙の如く、
 水を渡る
 魚の如く、
 淵を深く
 水を渡る
 鳥の如く、
 巣を築き
 卵を育て
 子の如く、
 親を慕い
 愛を求め
 老の如く、
 衰えを
 悲しむ
 死の如く、
 命を絶つ
 蘇る如く、
 命を甦る
 再生の如く、
 命を蘇る
 命の如く、
 命を惜む
 命の如く、
 命を尊ぶ
 命の如く、
 命を愛する



まはつらんはま... (handwritten text)
 めよろちいざん... (handwritten text)
 まりのれ... (handwritten text)
 しにひり... (handwritten text)
 や... (handwritten text)
 ららな... (handwritten text)
 貞熱と探... (handwritten text)
 めく... (handwritten text)
 との... (handwritten text)
 妻の... (handwritten text)

と婦人の... (handwritten text)
 う... (handwritten text)
 ら... (handwritten text)
 さい... (handwritten text)
 月の... (handwritten text)
 あ... (handwritten text)
 と... (handwritten text)
 一... (handwritten text)
 を... (handwritten text)
 松の... (handwritten text)

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

一、^一 ^二 ^三 ^四 ^五 ^六 ^七 ^八 ^九 ^十 ^{十一} ^{十二} ^{十三} ^{十四} ^{十五} ^{十六} ^{十七} ^{十八} ^{十九} ^{二十} ^{二十一} ^{二十二} ^{二十三} ^{二十四} ^{二十五} ^{二十六} ^{二十七} ^{二十八} ^{二十九} ^{三十} ^{三十一} ^{三十二} ^{三十三} ^{三十四} ^{三十五} ^{三十六} ^{三十七} ^{三十八} ^{三十九} ^{四十} ^{四十一} ^{四十二} ^{四十三} ^{四十四} ^{四十五} ^{四十六} ^{四十七} ^{四十八} ^{四十九} ^{五十} ^{五十一} ^{五十二} ^{五十三} ^{五十四} ^{五十五} ^{五十六} ^{五十七} ^{五十八} ^{五十九} ^{六十} ^{六十一} ^{六十二} ^{六十三} ^{六十四} ^{六十五} ^{六十六} ^{六十七} ^{六十八} ^{六十九} ^{七十} ^{七十一} ^{七十二} ^{七十三} ^{七十四} ^{七十五} ^{七十六} ^{七十七} ^{七十八} ^{七十九} ^{八十} ^{八十一} ^{八十二} ^{八十三} ^{八十四} ^{八十五} ^{八十六} ^{八十七} ^{八十八} ^{八十九} ^{九十} ^{九十一} ^{九十二} ^{九十三} ^{九十四} ^{九十五} ^{九十六} ^{九十七} ^{九十八} ^{九十九} ^{一百}

一、^一 ^二 ^三 ^四 ^五 ^六 ^七 ^八 ^九 ^十 ^{十一} ^{十二} ^{十三} ^{十四} ^{十五} ^{十六} ^{十七} ^{十八} ^{十九} ^{二十} ^{二十一} ^{二十二} ^{二十三} ^{二十四} ^{二十五} ^{二十六} ^{二十七} ^{二十八} ^{二十九} ^{三十} ^{三十一} ^{三十二} ^{三十三} ^{三十四} ^{三十五} ^{三十六} ^{三十七} ^{三十八} ^{三十九} ^{四十} ^{四十一} ^{四十二} ^{四十三} ^{四十四} ^{四十五} ^{四十六} ^{四十七} ^{四十八} ^{四十九} ^{五十} ^{五十一} ^{五十二} ^{五十三} ^{五十四} ^{五十五} ^{五十六} ^{五十七} ^{五十八} ^{五十九} ^{六十} ^{六十一} ^{六十二} ^{六十三} ^{六十四} ^{六十五} ^{六十六} ^{六十七} ^{六十八} ^{六十九} ^{七十} ^{七十一} ^{七十二} ^{七十三} ^{七十四} ^{七十五} ^{七十六} ^{七十七} ^{七十八} ^{七十九} ^{八十} ^{八十一} ^{八十二} ^{八十三} ^{八十四} ^{八十五} ^{八十六} ^{八十七} ^{八十八} ^{八十九} ^{九十} ^{九十一} ^{九十二} ^{九十三} ^{九十四} ^{九十五} ^{九十六} ^{九十七} ^{九十八} ^{九十九} ^{一百}

